

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR等を参考に作成する。

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

2 各問題の出題意図と解答結果

共通テスト第6回である令和8年度の問題の種類、各設問数、配点の内訳は【表1】の通りである。

【表1】

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
問題番号	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	6	6	8	16	14
配点	24点	16点	40点	60点	60点

第1問は発音問題である。ピンインによる出題をリスニング問題の代替とする観点に基づき、ピンインを用いて出題している。第2問は、A、Bともに1題にした。第3問はA、B各4題ずつ合計8題とした。第4問は、共通テスト第1回から特に充実させた形式で、複合的な資料の読み取りを測定する問題である。中間Aでは、クラスメイトの会話、表とその解説の文章などから情報を読み取った上で適切な選択肢を選ばせ、複合的な資料の読み取りにおける情報の受信力を測定できる問題とした。中間Bでは、図や発言から情報を読み取り、適切な選択肢を選ばせ、複合的な資料の読み取りにおける情報の発信力を測定できる問題とした。令和8年度では受信8（中間A）、発信8（中間B）の計16問にした。第5問は長文問題で、文章の流れに合う語彙の選択、内容理解など、長文読解力全般を測る問題としている。令和8年度問題では14問にした。

第1問：発音の基礎及び正確さを確認する問題、正確なピンイン把握によるコミュニケーション力を確認する問題である。

音節の3つの要素（声母、韻母、声調）について問う出題及び正確なピンインの把握によるコミュニケーション力を問う出題となっている。中間AからDにわたって、日本の高等学校で初めて中国語を学ぶ生徒の語彙の習得範囲を考慮し、基本的な単語から出題した。Dについ

ては、会話文をピンインで出題した。中国語表記の補助手段としてピンインによる表記法を用いることは、リスニング問題の代替にもなり、中国語の4技能をバランスよく習得するために必要な手段であり、日本の高等学校における中国語教育では極めて重要である。

- A：声母に関する知識を問うもので、**1**は“j”の正確な把握および“x”と“zh”との区別を問うもので、正確な発音の習得と知識が求められる問題であった。
- B：韻母に関する知識を問うもので、**2**は“-iao”の正確な把握と“-ao”および“-iu”の区別を問うもので、正確な発音の習得と知識が求められる問題であった。
- C：声調に関する知識を問う問題で、**3**は“三声+四声”，**4**は“二声+三声”の声調の組合せを問うている。正確な声調の習得と知識が求められる問題であった。
- D：ピンインの会話文によるコミュニケーション力を問う問題である。**5**と**6**共にピンインで書かれた会話文の内容を理解した上で、日本語の問いに対して日本語で解答する文である。ピンインの会話文の意図するものを正確に読み取り、さらに設問の内容をくみ取り解答する力が求められる。

第2問：語彙力・表現力を測る問題である。

- A：**7**は文の一部をブランクとし、適切な語を選ばせる問題で、単語の意味・用法に対する正確な知識を問う問題である。語の正しい理解が求められる。
- B：**8**はAと同様に、語の意味・用法に対する正確な知識を問う問題である。適当でないものを選ばせることでAよりも難易度を上げている。
- C：日本語の文を読み、与えられた語句を正しく並べて対応する中国語の文を作る、和文中訳の設問である。八つの選択肢から必要な四つを選ぶ。文法や語句の理解を確認する問題である。なお、**9**～**12**は共に各語の意味はもちろんのこと、日本語文と対応する中国語を組み立てる能力が必要となる。

第3問：作文能力及びコミュニケーション力を測る問題である。

和文中訳及び中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題である。

- A：日本語の文を読み、対応する中国語の文を作る、和文中訳の設問である。文法や語句の理解を確認する問題である。**13**～**16**は共にピンインから正確な中国語の内容を読み取り、さらにその内容と日本語の合致が求められる問題になっている。
- B：中文和訳問題で、設問はピンインで表記してあり、日本語の日常的な表現に対応する中国語の運用能力を測ろうとするものである。問1～問4はいずれの設問もピンインで示された中国語の表現を的確に理解した上で、日本語の選択肢と対応させて最後まで読み解かなければ正解が導けないように工夫した。**17**～**20**は共にピンインから正確な中国語の内容を読み取り、さらにその内容と日本語の合致が求められる問題になっている。

第4問：複合的な資料から読み取る問題である。

実際のコミュニケーションの場を具体的に設定して、身近な話題に関する資料から、必要な情報を読み取り、複数の情報を比較・判断して要点をつかむ力を問う問題である。言語情報处理的観点から必要な内容を整理・統合して正答を得るようにしている。中間Aでは情報を受信する場面における中国語運用能力、中間Bでは情報を発信する場面における中国語運用能力を問う。現実の生活に即した素材からの出題であるため、第1問～第3問の出題には使われなかったレベルの語彙もこの第4問に取り入れている。ただし、受験者にとって難度が高い語彙は避け、正答を導くのに必要な情報は適切な語彙レベルを維持するよう配慮した。また現実の生活の面における中国語の運用能力を問うことを主眼とするため、図表・グラフ・地図などを使って情報をスムーズに伝える工夫をした。

Aは自動運転について話している会話で、自動運転に関するグラフや図と講演内容をメモにまとめた内容を読み取る力を測る問題である。問1は、会話の内容を的確につかみ、その内容として適当なものを選ぶ問題である。問2は、グラフから読み取れることとして適当でないものを選ぶ問題と、図から読み取れることとして適当なものを選ぶ問題である。問3は、講演内容をまとめた文章を読み取り、その内容として適当なものを選ぶ問題である。様々な形態の情報から必要な言語情報を抽出し、それらを処理した上で、適切な解答にたどり着く能力を測っている。

Bは、自動運転に関して調べたことを授業で発表する場面である。案内に基づいて計画を立てる力や、資料とメモから読み取れることを整理し、内容をまとめたチラシから必要な情報を抽出する力を測る問題である。問1は自動運転のレベル4を目指す市が提示したSNSアカウントを通じた案内から、無人自動運転バスに乗車したいと考え、計画を立てることにした場面において、座席を確保できる可能性のより高い日時を選ぶ問題である。問2(1)は、現地調査で得た資料とそれに基づいて作成したものから内容と一致するものを選ぶ問題である。問2(2)は自動運転に関して注意すべきことをチラシにまとめたものを提示し、その内容と一致しないものを選ぶ問題である。内容と一致しないものを選択する問いを出題することで、問題の識別力を高めた。問3は、発表に基づいて行われたディスカッションを振り返った感想文をもとに、読み取れるものとして適当なものを選ぶ問題である。収集した様々な形態の情報から必要な言語情報を抽出し、それらを処理した上で、適切な解答にたどり着く能力を測っている。

第5問：長文読解力を測ることを主たるねらいとしている。

この第5問も第4問と同様、第1問～第3問の出題には使われなかったレベルの語彙も取り入れている。長文の分量は、1ページ強とした。問題文は、母と娘がレストランに行ったことで生じたウエイトレスとのやり取りから生じた物語文を読み、設問に答える形式である。この文では親子の会話や行動を通して、母親の心情の揺れや娘の成長が描かれている。物語全体を通じた総合的な読解力が試されている。問1～問3、問5、問6、問10は内容理解の問題、問4、問7、問9は適当な中国語の語句や文を選ぶ問題、問8は適当でないものを選ぶ問題である。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見などについての見解

今年度の問題において、各設問について識別力の点から問題の追加・削減を行い、さらに新たな出題形式を採用した。平均点等の情報については、追試験は受験者が少ないため、公表していない。それゆえ、本試験との難易度の違いや過年度の問題との比較は単純にできないが、問題作成に際しては、問題構成・出題数のみならず、難易度についても本試験と同程度であるように努めた。

高等学校教科担当教員（以下「教科担当教員」という。）からは、全体的な評価として「設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた」と評価をいただいた。

個別の設問について、まず第1問は、日本の高等学校で初めて中国語を学ぶ生徒の語彙の習得範囲を考慮し、基本的な単語から出題した。中国語表記の補助手段としてピンインによる表記法を用いることは、リスニング問題の代替にもなり、中国語の4技能をバランスよく習得するために必要な手段であり、日本の高等学校における中国語教育では極めて重要であり、教科担当教員からも良問との評価を受けている。

第2問Bについて、「適当でないもの」を選ばせる形式の問題は難度が高くなるが、この形式の

問題も高校生は訓練を受けているということで、必要な問題形式である。Cの短文中の空欄に入る適語を選択肢から2つ選択する問題は、文全体の意味の把握と語の文法的性質の理解が必要とされる。

第3問は、日本語から中国語への作文や中国語文から日本語への翻訳に関する出題をした。この問題は昨年度の試験において識別力のある問題であったため、今年度はその数を増やした。

第4問については、教科担当教員から、内容や文脈を正確に読み取ったり、複数の情報をもとにして考えたりする問いがあり、優れた構成であったと評価された。また、第5問については、物語全体を通した総合的な読解力が試されており、良問が多い、との評価があった。

4 まとめ

現行の学習指導要領においては、英語以外の外国語に関する科目は「英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うもの」とされている。当該言語に応じた明確な指導目標が存在しないが、問題作成部会としては、まずは日本語を母語とする学習者が高等学校の学習で到達した学力を正しく評価できる試験を作成する点に変更はない。教科担当教員からも、高等学校からの学習者が対応できるような出題を強く要望されている。本部会の問題作成の方向性が平均点によって揺らぐことは、学習者にとって望ましくないが、引き続き正答率の特に高い問題と低い問題をそれぞれ分析することによって、語彙レベルや文章題の難易度をそれほど大きく変えることなく、さらに母語話者が多いと考えられるという中国語受験者の特性に対応しつつ、高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思うような作問を心がけていきたい。

今年度も教科担当教員の方々を始め各方面から有益な意見を頂いたことに、深く感謝したい。こうした意見を参考にしながら、「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる問題」の作成を通じて中国語教育の発展と充実に寄与していく所存である。